

平成20年1月21日

宇都宮市教育委員会

教育長 伊藤文雄様

(仮称) 第3次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会

会長 廣瀬隆人

(仮称) 第3次宇都宮市生涯学習推進計画について (提言)

本懇談会は、平成19年8月20日から3回にわたり15名の委員により、「(仮称) 第3次宇都宮市生涯学習推進計画」について協議してきました。

現代社会においては、社会経済等のグローバル化や少子高齢化、価値観の多様化、さらには地方分権が進展しています。このような中で、市民として生活し子どもたちをはぐくむ上で、人間力の向上や家庭・地域の教育力の向上など、人づくりに関する課題がますます大きなものとなっており、生涯学習を取り巻く環境も変化してきています。

このようなことから、市民の生涯学習を継続的に発展させるとともに、「宮っこ未来ビジョン」で示す本市の人づくりの推進に向けて、本市で取り組むべき方向について協議を行いました。

本市の生涯学習の状況や、今後必要な取組み、また、人間力や家庭・地域の教育力の向上などの課題への対応について検討する中で、地域ぐるみで教育や学習を推進することにより、生涯学習や人づくりを推進するという本市独自の方向性が導き出されました。

こうしてまとめられた計画素案については、別添のとおり懇談会委員の意見が概ね取り入れられたものとなっておりますので、本懇談会といたしましては、本計画に基づき、基本理念に掲げた『学びを通して豊かな人間性を育み、子どもの育ちや地域社会を支える「人づくり」を進める』ことを目指して、市民・団体・企業・行政など地域が一体となって生涯学習の推進に積極的に取り組むなど、地域や地元を大切に、地域を活性化する方向性となっていくことを期待いたします。

(仮称) 第3次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会における主な意見

■ 計画の基本的な考え方について

- ・ 宇都宮独自の計画であるべきであり、宇都宮市民としての自覚と誇り、宇都宮市民でよかったと思ってもらえるような理念や施策事業が必要となる。
- ・ 家庭・地域の教育力や、地域を支える人材、地域の課題解決などが課題となっていて、これまでの生涯学習の推進計画とはかなり様相が違うものとなる。
- ・ 生涯学習は、個人が一生学び続け、向上心を持てばよいことだったが、そのことによって、地域全体が成熟した、まちづくりにつながることも含めて考えていくことがよい。

■ 計画の基本理念・目標について

- ・ 基本理念の部分は、はっきりした表現にしてほしい。
- ・ 人間力というのは新しい言葉なので説明が必要であり、その中で道徳心や相手を尊重するという気持ちを盛り込むべきである。
- ・ 目標や事業はあれもこれもと盛り込まれすぎているので、絞り込んでもいい。
- ・ 生涯学習課で考えるまちづくりというのも説明が必要。コミュニティのリーダーづくりといったことを中心にするとわかりやすい。

■ 施策の構築について

● 社会の変化に対応する社会教育の充実

- ・ うつのみやの花火大会を若者たちが本気になってやったように、若者たちが自分たちの地域のよさに気付いて、魅力を発散できる計画としてほしい。
- ・ 学びの自己完結で終わるのでなく、その学びを誰かのために、地域のために、あるいは地域の課題に結び付けていくような施策をひとつ柱にしてほしい。
- ・ 団塊の世代が退職後自分の人生を豊かにするために、受身ではなく行動による学びを提案していけばいい。
- ・ 地域に愛着を持たなければ街はよくなるので、地域に愛着を持てるような施策を取り入れてほしい。
- ・ 宇都宮の地域文化のすばらしさや価値をきちんと教えるという教育的側面でやってほしい。
- ・ 宇都宮独自の計画であるべきであり、宇都宮市民としての自覚と誇り、宇都宮市民でよかったと思ってもらえるような理念や施策事業が必要となる。(再掲)

● 家庭・地域における教育活動への支援

- ・ 地域活動に父親に活躍してもらうことが重要で、そのためには企業の協力が必要となる。
- ・ 義務教育が終わるまでの親の支援体制という部分で生涯学習の体制ができるとよい。
- ・ 子育て世代や、その下の世代に重点化して計画を作ってほしい。
- ・ これから地域で子どもを育てていくのには、学校を巻き込んだ地域ということによっていくことが必要であり、学校も地域と一緒にやっていかないと本当の教育はできない。
- ・ 宮っ子ステーションや魅力ある学校づくり地域協議会などは地域の基盤がないとできないので、地域全体で取り組んでいく必要がある。
- ・ 今の子どもや大人にすることは10年、20年先に効いてくることであり、学校や地域などの関係や実行性のことは検討しなければならないが、勇気をもって書いてもいい。

● 市民の主体的な学習活動の促進

- ・ 学習者同士、また学習者ではない人との交流・ネットワークがキーワードになる。
- ・ 図書館や生涯学習センター、コミュニティセンターなどは、利用する人と利用しない人が、両極端であり、利用されない人については、(施設や事業が)知られていないということが問題で、きめ細かく情報を提供すれば、市民の生涯学習に対する関心が高まるし、活動も増えてくる。
- ・ 生涯学習に関係するボランティアなど、年齢に関わらず「学び」を「地域」へと広げていけるような取組みをしてほしい。
- ・ 地域で事業をやるといったときに、地域差がでてくるので、事業を企画するリーダーを育てることが必要になる。

● 推進体制の整備

- ・ 生涯学習センターなど施設の数はいちおう充実しているが、教える人への教育などソフトの充実が必要であり、施設整備から講座の内容という次の段階にきている。

■ 計画の推進について

- ・ 既存計画よりも集約した内容とはいっても、まだ幅広いものとなっているので、実施するときは各課の事業などと連携して行うなどの注意書きがあるとよい。

■ 計画の名称について

- ・ 計画の名称と、(文章の)わかりやすい表現については再度検討してほしい。

- ・ 社会教育，地域教育のような名称がよく，「人づくり」という言葉を，サブタイトルなどで入れるとよい。
- ・ ひらがなを標題にして，副題を第3次宇都宮市生涯学習推進計画にするとよい。
- ・ 子どもたちが宮っ子チャレンジという言葉に対して誇りを持っているので，「宮っこ」をいれて受け入れやすいタイトルにしてほしい。

(仮称) 第3次宇都宮市生涯学習推進計画策定懇談会委員名簿

No.	氏名	該当号	備考
1	高田 實	1	宇都宮市小学校長会 会長
2	櫛淵 澄江	1	宇都宮市地域婦人会連絡協議会 会長
3	塚田 栄一	1	宇都宮市子ども会連合会 会長
4	若度 哲久	1	宇都宮市PTA連合会 会長
5	伊藤 誠	1	宇都宮市地域まちづくり協議会連絡会議 議長
6	松江 比佐子	1	チャイルドラインとちぎ 副理事長
7	◎ 廣瀬 隆人	1	宇都宮大学 教授
8	○ 綱河 秀二	1	市議会議員
9	山島 哲夫	1	宇都宮共和大学 教授
10	八代 圭二	2	NHK文化センター宇都宮支社 支社長
11	藤本 いづみ	2	V・Gすずめ 事務局次長
12	田辺 勇治	2	東京ガス株式会社宇都宮支社 支社長
13	伊藤 昭一	3	公募委員
14	大塚 知子	3	公募委員
15	福田 有見子	3	公募委員

◎：会長，○：副会長